

小学校第5学年 E ボール運動 ウ ベースボール型 ソフトボール

単元の目標

知識及び技能	ソフトボールの行い方を理解するとともに、仲間の投げるゆっくりとしたボールを打つ攻撃や打球方向に移動して捕球したり、多くの得点をとるための攻め方やチームとして得点を与えないような守り方をしたりして、競争の楽しさを味わうことができるようにする。	評価規準
思考力、判断力、表現力等	相手チームに勝つために、相手が守っていない方向へ打つ攻め方やアウトが取れる守備の位置やフラフープの位置などの守り方をチームで考え、言葉や絵図、ICT機器を用いて伝えることができるようにする。	
学びに向かう力、人間性等	4チームと勝敗を競いながらソフトボールをすることに興味を持ち、打ち方や守り方の理想像を共有して、友達と意欲的に動きを相互評価しながら、共に達成する楽しさや競争する楽しさに向かって運動する態度を育てることができるようにする。	

【知識・技能】
 ①ソフトボールの行い方について学習した具体例を挙げている。
 ②打つことに関する感覚づくりの運動の行い方について、言ったり書いたりしている。
 ③ねらった方向や、遠くへ飛ばす打ち方について、言ったり書いたりしている。
 ④仲間の投げたゆっくりとしたボールを打つことができる。
 ⑤ねらった方向へ打ち方や、遠くへ飛ばす打ち方ができる。

	1	2	3・4	5・6	7
ねらい	単元のゴール像をつかみ、自己の動きの課題を把握することができる。	全体で、動きのポイントをつかむ。	チームで動きをつくる。 チームで攻め方や守り方を工夫して試合ができる。	チームで動きを高める。 チームで攻め方や守り方を工夫して試合ができる。	大会（モリリンピック）を開催し、チームで協力し合い、記録の向上を実感できる。
導入	試しのソフトボールの運動と理想のソフトボールの動きの映像をもとに、ゴール像をつかむ。 (モリリンピック)	ウォーミングアップ（場の準備＋簡単ストレッチ＋感覚づくりの運動①②） ①ティーバッティング（ねらって打つ場） ②トスバッティング（遠くへ飛ばす場） 共：（1）チーム活動を取り入れた学習過程の工夫 ・心と体をほぐすために、チームで場の準備やウォーミングアップを行う。			会場設営
展開	試しの運動をする。 (ソフトボール)	ウォーミングアップの仕方を理解する。 めあてを確認する。 練習タイム 共：（1）チーム活動を取り入れた学習過程の工夫 ・チームの仲間と場を選択したり、動きのポイントを教え合いながら練習する。 共：（2）チームで動きを高めるための教具や場の工夫 ゲーム 共：仲間と競争する楽しさを味わうために、他チームとソフトボールを行う。	めあてを確認する。 練習タイム 共：（1）チーム活動を取り入れた学習過程の工夫 ・チームの仲間と場を選択したり、動きのポイントを教え合いながら練習する。 共：（2）チームで動きを高めるための教具や場の工夫 ゲーム 共：仲間と競争する楽しさを味わうために、他チームとソフトボールを行う。	めあてを確認する。 練習タイム 共：（1）チーム活動を取り入れた学習過程の工夫 ・チームの仲間と場を選択したり、動きのポイントを教え合いながら練習する。 共：（2）チームで動きを高めるための教具や場の工夫 ゲーム 共：仲間と競争する楽しさを味わうために、他チームとソフトボールを行う。	開会の言葉（児童） 競技上の注意（担任） 競技 (ソフトボール) 2回表裏の勝負 トーナメント戦 表彰（学校長） 講評（学校長） 閉会の言葉（児童）
終末	学習の振り返りをする (タブレット) 片付け	学習の振り返りをする (タブレット) 片付け	学習の振り返りをする (タブレット) 片付け	学習の振り返りをする (タブレット) 片付け	学習の振り返りをする (タブレット) 片付け

【思考・判断・表現】
 ①相手が守っていない方向へ打つ攻め方を選んでいいる。
 ②アウトが取れる守備の位置やフラフープの位置などの守り方の工夫を友達に伝えている。

【主体的に学習に取り組む態度】
 ①ソフトボールに積極的に取り組もうとしている。
 ②場や用具の安全に気を配りながら、ソフトボールに取り組もうとしている。
 ③ソフトボールの競争で、勝敗を受け入ようとしている。

知識・技能	①	②	③・④	⑤	⑤
思・判・表			①・②	①・②	①・②
主	①	①・②・③	①・②・③	①・②・③	①・②・③

チームの仲間と協力しながら運動を行い、運動の楽しさを味わう子ども
 小学校第5学年 E ボール運動 ソフトボール「モリリンピック ソフトボール」

1 単元の目標

- ソフトボールの行い方を理解するとともに、仲間の投げるゆっくりとしたボールを打つ攻撃や打球方向に移動して捕球したり、多くの得点をとるための攻め方やチームとして得点を与えないような守り方をしたりして、競争の楽しさを味わうことができるようにする。【知識及び技能】
- 相手チームに勝つために、相手が守っていない方向へ打つ攻め方やアウトが取れる守備の位置やフラフープの位置などの守り方をチームで考え、言葉や絵図、ICT機器を用いて伝えることができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】
- 勝敗を競いながらソフトボールをすることに興味を持ち、打ち方や守り方の理想像を共有して、友達と意欲的に動きを相互評価しながら、共に達成する楽しさや競争する楽しさに向かって運動する態度を育てることができるようにする。【学びに向かう力、人間性等】

2 共生を基盤とした授業づくりにおける仕掛け

本単元で味わわせたい運動の楽しさは、二つである。一つは、①バットにボールを当てる、②遠くへボールを飛ばす、③狙った場所にボールを飛ばすといった「打つ」という技能の個人の目標を達成する楽しさである。二つは、他の三つのチームとソフトボールを行い、ゲームを通して勝敗を競う競争する楽しさである。

(1) チーム活動を取り入れた学習過程の工夫

1時間における学習を、【資料1】のように、六つの活動に分けた。その中で、ウォーミングアップ、練習タイム、ゲームタイム、振り返りは、チームの仲間と関わりながら取り組めるように仕組んだ。このような学習過程の工夫を仕組んだことで、ウォーミングアップでは、チームの友達とストレッチや感覚づくりの運動練習タイムでは、打つことが得意な児童(チームリーダー)を中心に、打つことが苦手な児童に教える姿が見られた。また、目標としている技能が達成できたときには、共に喜び合う姿も見られた【資料2】。その後のゲームタイムでは、練習の成果を発揮しながら、チームで打ち方のポイントをアドバイスしたり、応援したりして、ソフトボールの試合を通して、競争する楽しさを味わう姿が見られた【資料3】。

- ①ウォーミングアップ
- ②めあての確認
- ③練習タイム
- ④ゲームタイム
- ⑤キラリタイム
(よさを振り返る時間)
- ⑥振り返り



【資料1 チーム活動を取り入れた学習過程】【資料2 チームの仲間の目標達成を喜ぶ姿】 【資料3 仲間と競争する楽しさを味わう姿】

(2) チームで動きを高めるための教具や場の工夫

自己の目標を達成したり、勝敗を競ったりするためには、動きを高めることが不可欠である。そこで、本単元では、打つ技能に焦点化して、技能差に関わらずチームの仲間と動きを高めることができるように、教具を工夫した。安全面に配慮しながら何度も練習に取り組みバットにボールを当てる感覚をつかむために、コーンで作成したオリジナルのティーバッティングをチームに二つずつと、ソフトボールより一回り大きなボールセットを準備した【資料4】。また、狙ったところにボールを飛ばす感覚をつかむために、的当てゾーンやコントロールゾーンの場を設定した【資料5】【資

料6】。このような教具や場を準備したことで、ウォーミングアップや練習タイムにおいて、チームの仲間と動きを高める姿が見られた。また、特別支援学級のA児（情緒）は、自分の得意さを発揮して、苦手な子に進んで教えたり、B児（知的）は、仲間に教えてもらったことで、ゲームの中で3点を取る活躍をしたりして、楽しむことができた。



【資料4 教具とチームで練習する様子】



【資料5 的当てバッティングの場】

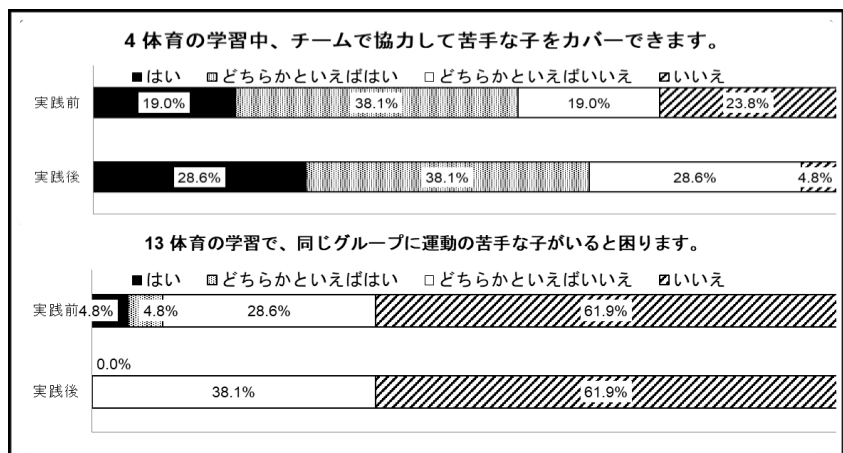


【資料6 コントロールバッティング】

3 成果と課題

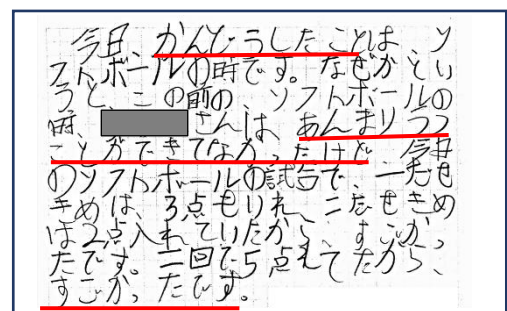
(1) 成果

○ 「体育の学習に関する児童アンケート」(21項目質問紙アンケート)から、チームの中で、リーダーシップを発揮したり、仲間と支え合ったりしながら運動することの楽しさを味わうことができた子が増加していることがわかる【図1】。このことから、チームの仲間と関わったり、チーム同士で競争したりすることができるように、学習過程や教具や場を工夫したことが有効だったと考える。



【図1 体育の学習に関する児童アンケートの結果】

○ B児の同じチームの子供の振り返りから、B児の目標が達成できたことを共に喜んでいることやチームの仲間と協力しながら、運動の楽しさを味わったことがわかる【図2】。このことから、チームの仲間と関わったり、チーム同士で競争したりすることができるように、学習過程や教具、場を工夫したことが有効だったと考える。



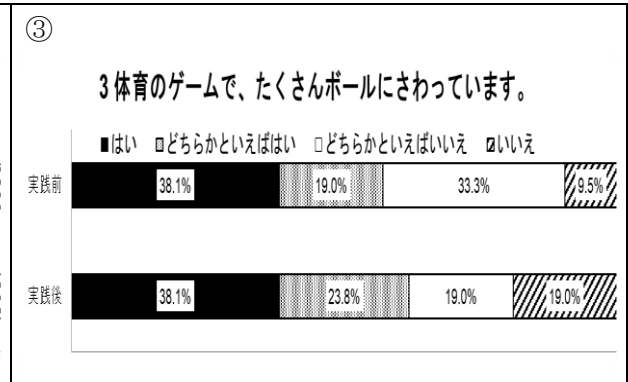
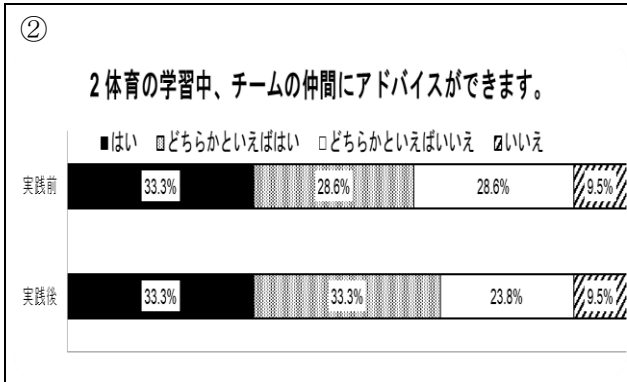
【図2 B児のよさを書いた児童の感想文】

(2) 課題

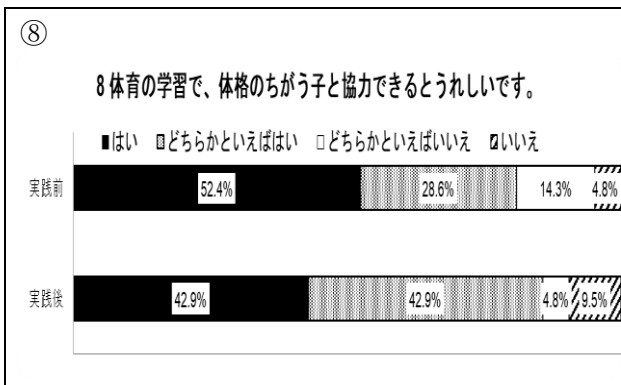
- アンケート結果から、運動が得意な児童が楽しめていないことが分かった。今後は、全ての児童が楽しめるような学習過程やルールの方を工夫していく必要がある。

【児童生徒の変容】

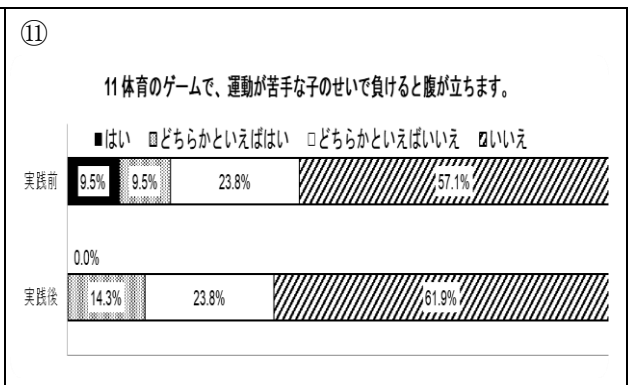
〔Ⅰ リーダーシップ〕



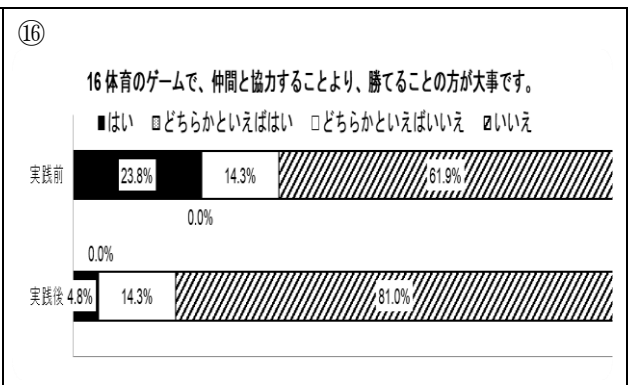
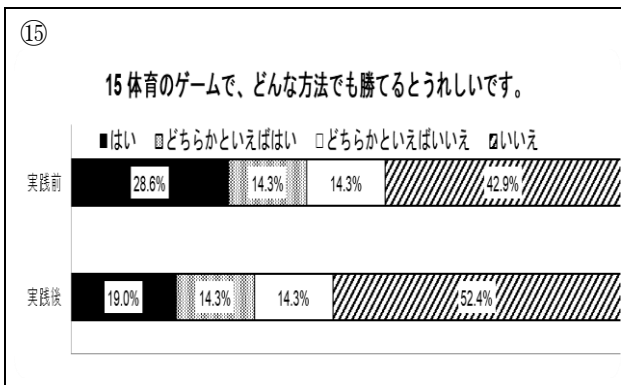
〔Ⅱ ちがいの受容〕



〔Ⅵ 失敗への排斥〕



〔Ⅴ 過度な勝利志向〕



【授業実践協力者の声】

学級の中で気になる A 児は、体育の学習が好きで意欲的です。実践を通して、体育の学習だけでなく、いろいろな場面において、リーダーシップを発揮したり、相手のよさを認める言葉かけをしたりする姿が見られるようになりました。

特別支援学級の子供も含めた全員が楽しめる体育学習という視点は、とても大切であり、日頃の学校生活にもよい影響を与えることを実感できました。これからもみんなが楽しめる教材を考えていきたいです。

